



図書館サポーターズだより

明日に吹く風

2008年6月 第6号



5月が終わり6月になりました。新入生のみなさんも大学生活に慣れてきた頃かと思います。空き時間に図書館へ足を運んで、映画を観るのも良いのではないのでしょうか。

* AVライブラリーごあんない

図書館2FにAVライブラリーがあります。お気軽にご利用下さい！

利用したいDVDやCDを、**学生証**と一緒にカウンターまでお持ち下さい。学生証をお預かりします。

座席札が渡されますので、書かれています番号の席をご利用下さい。

利用が済んだら、DVD・CDと座席札をカウンターにお戻し下さい。その際に学生証をお返しいたします。

お友達と一緒にご利用いただくこともできます。4名以上の際は複数人用の席にご案内します。

* 新着 DVD

邦画

舞妓 Haaaaan!! / 初恋の雪 /
そのときは彼によるしく / 眉山 /
キサラギ / めがね / 憑神 /
バッチギ! / 東京タワー

洋画

敬愛なるベートーヴェン /
クイーン主人公は僕だった / 旅の途中で /
バイレーツ・オブ・カリビアン / オーシャンズ13 /
ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団 /
クラッシュ / トランスフォーマー / パベル

* おすすめの100冊を読みました

『星の王子さま』 著者 サン=テグジュペリ 推薦者 和泉涼一先生

小さな星にすむ小さな王子さまが旅立ち、様々な大人と出会い、地球で「ぼく」と出会う物語です。非常にシンプルな童話です。子どもが読むには表向きを知るだけで良いかもしれませんが、大人になってから読むと、サン=テグジュペリが違う世界を案内してくれていることに気がきます。何をテグジュペリが伝えようとしているのかを、ぜひ読んでみて欲しいです。

書評者 Y.S



* 第1回 IC先生と図書館 ~岡田典夫先生~

学生時代のぼくにとって、図書館は、大学の中でいちばん落ち着ける場所、いわば、自分の『居場所』でした。大テーブルの隣にも、対面にも、人は居るけれど、けして群れているわけではない。一人ひとりが、静かに自分の課題と向き合っている孤独な空間と時間。「これが大学だ」と思いました。『居場所』があると、人は探索行動に出ることができます。まず、図書館内散策。書架の間をゆっくり歩きます。気になるタイトルが見えたら、とりあえず手にとって目次を一覧、いちばん面白そうところをバラバラと拾い読みします。そして次に、書架の周辺を探索。これが大切です。なぜなら、周りには、きっとその本の仲間たちが居ますから。

こんな出会いを繰り返すうちに、ぼくにはしだいに自分の関心・テーマがわかってきました。そして、今もその延長上にいます。

1990年代から、カタログ電子化の仕事が始まりました。LIMEDIOは、その「現在進行形」です。なんと、携帯から検索できるのですから驚きです。電子検索の世界は、茨城キリスト教大学図書館内だけでなく、日本中、いや世界中の図書館や書店を繋いでいます。その検索技法をしっかり身につけることは、自分の生活を、世界の『知』に連ねることです。大学時代に、ぜひ「検索名人」への第一歩を踏み出してください。